



鏡を用いた手術では、腎臓を全部摘出することは普及したものの、腎臓を部分的に切除することは難しく熟練が必要だとされていました。腹腔鏡の二次元モニターの平面視野で、腎臓の血管を遮断しながら腫瘍の切除と腎臓の修復をすばやく行うことが課題でした。そこでダヴィンチを用いた三次元モニターによる立体視野での『ロボット支援手術』が開発されました。



▲開腹手術



▲腹腔鏡手術

「ダヴィンチ」を用いた ロボット支援腎部分切除術

今年4月から、早期の腎臓がんに対するロボット支援腎部分切除術が保険適用となりました。当院では2013年の4月からすでにロボット支援腎部分切除術を開始しており、施設基準や手術実績など安全に手術を行う条件をすべて満たしております。

手術療法は少なからず患者さんに負担をかける治療法ですが、私たちはなるべく体に侵襲の少ない治療法を心掛けています。低侵襲手術の

代表格である「ダヴィンチ手術」は、腎部分切除術を含めて244人(2016年8月まで)の泌尿器科の患者さんに行っております。手術による体の負担を減らすのは当然のことですが、手術後も体に負担をかけないように、すなわち慢性腎臓病の予防にも、取り組んでいます。腎臓に負担をかけると手術後に慢性腎臓病となり、心筋梗塞や脳卒中にかかりやすくなってしまいます。術後の慢性腎臓病の発症を予防する方法のひとつとして、ロボット支援腎部分切除術をいち早く取り入れております。



▲ダヴィンチ手術

最後に

泌尿器科では、それぞれの患者さんに適した治療を追求していきます。信頼できる治療を提供できるよう務めてまいりますので、よろしくお願いいたします。